

自分たちにできることは?



学習のねらい

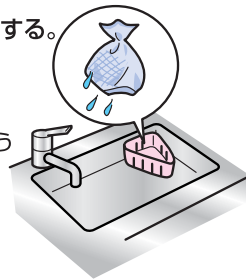
- 水質汚濁の最大の原因である生活排水を減らすために自分たちにできることは何かを考える。

1. 家庭でできること

◆ 台所

・ 食べ物を作り過ぎない。
買い過ぎ、作り過ぎは残飯の山が増えるだけです。
台所から流すゴミをまず減らすことが大切です。

・ 流しから調理くずを流さないようにする。
三角コーナーや網かごには水切りネット等を付けて、細かいくずを取り除く。
また流し台のゴミはこまめに取り除くようにする。



・ 米のとぎ汁は、リンや窒素を多く含むため流しに直接流さず、植木や花壇などにまいて、肥料として使う。

・ 食器洗いには、アクリルやたわしなどを使い、洗剤をあまり使わない。

・ 使った油は流さないようにする。
天ぷら油は、油こし紙などで汚れを取り除き、何回か繰り返し使う。捨てる時は、古紙やぼろ布などにしみ込ませたり、油固化剤などを使ってゴミとして出す。

・ 食器等の汚れは、キッチンペーパーなどで拭いてから洗う。



| 拭き取りの報告事例 | 拭いて洗った場合のBOD負荷量の削減 | | |
|-----------|--------------------|-------|-------|
| | 拭かない | 拭いた | 削減負荷量 |
| ハンバーグの場合 | 3.5g | 2.3g | 1.2g |
| トンカツの場合 | 23.6g | 19.5g | 4.1g |

(資料) 国立環境研究所資料

◆ 風呂

・ シャンプーやリンス、入浴剤などを使いすぎないようにする。

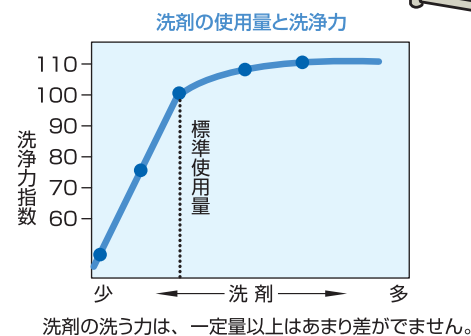
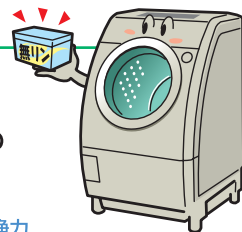


・ 風呂の残り湯は、洗濯などに再利用する。
残り湯は20～40℃あるため、少ない洗剤で汚れが落ちます。



◆ 洗濯

・ リンの含まれている洗剤は使わない。
・ 洗濯の時は、洗剤や柔軟仕上げ剤の量を使いすぎないようにする。



◆ トイレ

・ ティッシュペーパーは捨てない。
水に溶けない紙は、下水道がつまる要因になります。

2. 台所からでる汚れ

一人あたりの生活排水量は平均200リットルあり、汚れは約40グラムあります。そのうちの3分の2は台所からの排水であることを考えると、台所から汚れの原因となる物質がたくさん流されていることがわかります。

台所からでる汚れはこんなに川や海を汚しています。

| | しょう油 (15ml) | 米のとぎ汁 (2ℓ) | みそ汁 (200ml) | マヨネーズ (10ml) | 牛乳 (200ml) | 使用済みの油 (500ml) |
|---|-------------|------------|-------------|--------------|------------|----------------|
| 汚れのもと () 内の量を捨てたら… | | | | | | |
| 汚れのおおよその値 BOD (mg/ℓ) | 150,000 | 3,000 | 35,000 | 1,200,000 | 78,000 | 1,000,000 |
| 魚が住める水質 (BOD 5mg/ℓ程度) にするために必要な水の量は浴槽何杯分 (浴槽1杯300ℓ) | 1.5杯分 | 4杯分 | 4.7杯分 | 8杯分 | 10杯分 | 330杯分 |

3. 台所からでる汚れ

綾瀬川には、空き缶などの小さなゴミの他、自転車やバイク、テレビといった家電製品など大きなゴミが見られます。こうしたゴミの不法投棄、散乱を防止するための施策を行政が考えていかななくてはなりません。一方、流域住民は、川にゴミを捨てない。ゴミを見つけたら拾うといった心構えを常にもつことが大切です。また町中で捨てられた空き缶やたばこなどが、雨が降ったときに川に流されているといった側面もあり、町中でのポイ捨ても絶対に行わないことも徹底しましょう。



綾瀬川に捨てられたゴミ